

がれき
瓦礫の中からの復旧
～ アメリカ人から見た戦後の日本 ～

開催趣旨

このたび昭和館では、「^{がれき}瓦礫の中からの復旧～アメリカ人から見た戦後の日本～」と題して写真展を開催する運びとなりました。

本年は、終戦60年という節目の年です。先の大戦で日本各地は多くの街が破壊され、数多くの人びとが家を失い、家族を失いました。終戦により空襲の恐怖から逃れることができましたが、生活面では多くの苦勞が待ち受けていました。それでも人びとは希望を捨てず、どん底から抜け出る一歩を踏み出していったのであり、その意味で戦争が終わった昭和20年は、戦災からの「復旧元年」と言い換えることができます。

日本は終戦とともに連合国の統治下におかれ、進駐軍が各地に駐留するようになり、随行したカメラマンが戦後の日本を撮り続けました。

これらの写真は、現在、アメリカなど海外の資料館に膨大な枚数が収蔵されており、貴重な資料です。昭和館では、こうした写真の所在を調査・収集し、日本人が撮った写真とともにこれまでに多くを公開してきました。

今回の写真展では、廃墟となった街角から立ち上がり復旧を遂げつつある日本の姿を、戦争の傷跡が残る日本各地の様子をはじめ、人びとの様子や戦災処理をしつつ復旧に向けて励む人びとの様子、そして子供たちの生活や表情など、アメリカ人の目から見た光景として、未発表写真を含めて紹介いたします。

記

- 【主催】 昭和館
- 【会期】 平成17年4月28日(木)から5月8日(日)
- 【会場】 昭和館3階 企画展会場
- 【入場料】 無料(常設展示室は有料)
- 【開館時間】 10:00～17:30(入館は17:00まで)
企画展開催期間中は毎日開館します
- 【所在地】 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1
- 【問い合わせ】 TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575
- 【交通(電車)】 地下鉄【九段下駅】から徒歩1分(東西線・半蔵門線・都営新宿線4番出口)
JR【飯田橋駅】から徒歩約10分
- 【交通(車)】 首都高速西神田ランプから約1分
- 【ホームページ】 <http://www.showakan.go.jp>
- 【その他】 有料駐車場有り(普通乗用車のみ・1時間200円)
団体予約承ります

廃墟となった都市

終戦を迎えた後も、国内各地には空襲によって廃墟となった都市の瓦礫がしばらくの間放置されたままと
なっていた。また、呉などのかつての軍港では大破した艦艇などの兵器類の残骸が数多く見られた。人びと
はこのような廃墟の中で生活しながら、虚脱状態から立ち上がり、復旧にむけて一步を踏み出していった。



廃墟となった東京(昭和20年9月 銀座)

空爆で廃墟となった東京銀座の通りを歩く人
びと。背後の建物は三越デパート。



瓦礫の中から物を探す母子
(昭和20年9月 仙台)

瓦礫の中から物を探す母子。左はトタン板
で作った掘建て小屋。後方は生命保険会社
の仙台支店「仙台日本生命館」。



空襲で大破した軍艦
(昭和20年10月 呉)

空襲で大きな被害を受け、浸水着底
した重巡洋艦「青葉」。その後、播磨
造船所において解体された。呉をは
じめ、横須賀や佐世保等の旧軍港の
近くにはこうした残骸が残っていた。

連合国の統治と引き揚げ者

終戦とともに連合軍による国内統治が行われ、旧日本軍の武装解除が各地で進められた。さらに外地に移住していた人びとが引き揚げ、海外に派遣されていた軍人の復員が始まり、遅れてシベリアに抑留されていた旧関東軍などの兵士たちが帰還した。故国へたどり着いた彼らの安堵の表情や、家族との再会風景があちこちで見られた。



上陸するアメリカ兵
(昭和20年9月 和歌山)

和歌山の近くの海岸に上陸するアメリカ陸軍。



故郷に向かう列車
(昭和20年9月 広島)

故郷に向かう列車に乗った旧日本兵。どの列車も非常に混雑している。



満洲からの引揚者
(昭和22年1月 東京駅)

故郷へ帰る途中、荷物を持って東京駅に降り立った満洲(現中国東北部)からの引揚者。

瓦礫の中から復旧に向けて

戦後の混乱の中、人びとは次第に復旧に向けて歩み始めた。住居を失い、生活物資が不足する不自由な生活の中で、買い出しや闇市によって生活を支え困難を克服しながら、交通手段や家屋の復旧に当たっている人びとの様子、さらに国際社会への復帰の糸口ともなる輸出産業の復活に邁進する人びとの様子等、ファインダーを通して外国人が見た戦後の日本を垣間見ることができる。



復旧が始まった横浜
(昭和20年9月 横浜)

アメリカのブルドーザーが入り、瓦礫を片付ける。路面電車を待ちながら作業に見入る人びと。



人力車
(昭和22年 撮影地不詳)

燃料不足のため、昔ながらの人力車がタクシーがわり。時速20マイル(約32km/h)の速度制限の標識が見える。



真珠ネックレスの製造
(昭和23年7月 三重県)

三重県の養殖場で輸出向けに養殖した真珠に糸を通し、ネックレスを作る女性。

子供たちの戦後

戦後、主に都市部では戦災や引き揚げその他の理由で両親を失ったいわゆる「戦災孤児」の問題があり、さらに深刻な「食糧不足」の問題が子供たちにも及んでいた。

進駐軍の兵士から菓子をもらう子供たち、両親を失った悲しみと不安の中で孤児の収容施設で生活する子供たち、学校に戻ってきた子供たち、かつて「敵」と教えられた外国の兵士と子供たちの交流の様子など、戦後の混乱の中で生活する子供たちのとまどいや屈託のない表情が見て取れる。



子供たちと仲良くするMP
(昭和20年10月 札幌)

子供たちと仲良くするMP(進駐軍の憲兵隊)。



上野孤児院の音楽隊
(昭和23年8月 東京上野)

上野孤児院にできた音楽隊。毎日午後に孤児院で「戦争罹災者救済協会」の会員のためにコンサートを開く。



クリスマスプレゼントをもらう子供たち
(昭和26年12月 青森八戸)

アメリカ兵が扮したサンタクロースからプレゼントをもらう子供たち。